

夏季高温期の生産を回避したサインゲンの収量性

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

野菜－サインゲン－会津平坦

2 担当者名

芳賀紀之、大寺真史、中村陽登、野田正浩

3 要旨

会津地域におけるサインゲンは、夏季高温による花落ち等により、生産量が不安定な状況が続いている。そこで、夏季高温期の生産を回避し、秋季の生産量を確保するため、8月上旬播種での品種比較を行い、収量性を明らかにした。

- (1) 「ナリブシ」は規格内収量が最も多く、商品化率及びA品率が最も高かった。3品種とも収穫ピークが10月2半旬となり、順次減少する傾向にあった（表1、図1）。
- (2) 生育適温は15～25℃とされているが、試験ほ場の平均気温は開花始期（9月中旬）以降、概ね25℃を下回り、順次低下する傾向にあった（データ省略）。
- (3) 本試験は、所内ほ場（会津坂下町）において、防虫ネット被覆栽培で白黒ダブルマルチ展張、直播きで実施したものであり、播種（8月8日）後10日間の平均気温は25.2℃であった。

表1 規格内収量及び商品化率、A品率

| 品種 | 規格内収量 (kg/a) | 商品化率 (%) | A品率 (%) |
|----------|-----------------|-------------|------------|
| ナリブシ | 201.9 | 87.9 | 48.4 |
| スラットワンダー | 156.1 | 84.7 | 39.4 |
| いちず | 140.2 | 83.0 | 33.3 |

* 規格内収量はA、AL、B、C品の合計値

* 商品化率及びA品率は総収穫英数に占める割合

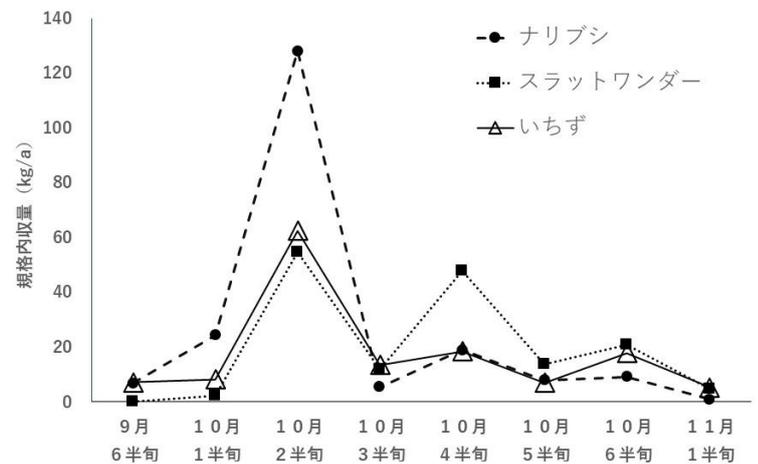


図1 時期別規格内収量の推移

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和7年度
- (2) 研究課題名 会津地域に適した作物、園芸品目等の生産技術の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) 国際農林水産業研究成果情報－耐暑性が高い丸莢のインゲンマメ新品種「ナリブシ」、2006年、国際農研